
Romantic Orgel

麻生柚葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R o m a n t i c O r g e l

【Nコード】

N 5 8 0 0 M

【作者名】

麻生柚葉

【あらすじ】

“モノ”が“終わる”時はいつなのだろうか。奏でることが出来なくなったオルゴールの思う“終わり”と持ち主が思う“終わり”のお話

僕は今日も歌を歌うよ。

ラララ

僕が歌えば貴女は笑顔になるから
それだけで僕の心は温かくなったんだよ。

ねえ、知っていましたか？

僕は貴女の為に歌を歌うよ。

ルルル

貴女の為にだけに、思いを込めて歌を歌おう。
それだけが僕に出来ることだった。

ねえ、気付いていましたか？

貴女の愛した人が好きだと言った歌を

あの人の変わりに僕が歌うから

どうか、泣かないで愛しい人

貴女は強い人だから

ずっとずっと悲しみを隠して、心の中で泣いていましたね。

“泣いても良いんだよ”と言えなかった

悲しみをそっと包むような優しい歌を僕は歌えなかった。

無神経に明るく前向きな歌を何度も何度も歌いましたね。

そのうちに貴女は泣かないままに、無理やり俯いた顔を前に戻した。

“無理はしないで” “ゆっくりでも良いよ”

気遣う歌など僕は知らない

だから、

沢山の思いを乗せて歌います。

この明るい歌に、優しさも切なさも労わりも込めて

ねえ、僕の“想い”は伝わっていますか？

僕は大好きな歌を歌うよ。

本当は気付きたくなかったんだ
もう、僕は何も出来ないんだって事

貴女の為に歌っていたかった。

貴女にずっとずっと必要とされたかった。

あの人の変わりでも良いから貴女の傍に居たかった。

壊れたオルゴールの涙

ああ、本当はもう二度と僕は歌えないんだね

歌えない僕が願うことは許されないのでしょうか？

今日も愛しいあの方は帰ってきませんでした。

いつまで私を待たせるつもりなのかしら。

ノックもしないで勝手に扉を開いて向日葵の様な明るい、けど少しガサツな笑顔をしながら帰って来るのを待っているの。

“もうちょっと早く帰って来なさいよ。” “悪いな”

なんて、そんなやり取りをして拗ねた私を優しく抱きしめて欲しい。

本当は分っているの。

あの方が二度と帰ってこない事は。

私一人を置いて逝ってしまった事は

だけだね、あの方の事だから今にもあの笑顔で帰って来てくれそうなんだもの

悪い冗談だった様な気がしてならないんだもの
現実を受け入れることなんて・・・出来ないの

悲しいわ。

でも、涙が出ないのはその所為なのかしらね。

苦しいわ。

でも、少しましなのはあの人がくれたオルゴールがあるからかしら。
寂しいわ。

でも、あの人の大好きな曲を聞いていると少し紛れる気がするの。

悲しくて悲しくて

あの人との思い出話を沢山しましたね。

苦しくて苦しくて

明るい曲の貴方に八つ当たりした事もありましたね。

寂しくて寂しくて

時には何度も何度もぜんまいを巻いて無理をさせましたね。

音のならないオルゴールを前に私は涙を流しました。

無茶をさせすぎたのかしら。

それはもうボロボロで、あの人から貰った時のオルゴールとは別物のようだったの。

だけどそれを醜いとは、汚いとは思わないわ

貴方はいつも明るい歌で私を励ましてくれたもの。

私の為だけに何度も歌ってくれた証拠なのだね。

貴方をあの人と重ねていたわけではないけれど

眠りにつく貴方を見て、すっかりけじめをつけないといけないと思
ったの。

あの人はもう二度と帰ってこないと。

あの人ときちんとお別れをしなくてはいけないと。

貴方のおかげでようやくあの人にお別れの言葉を言える気がします。
自分の気持ちに嘘について前を見る日々は止めようと思います。

さようなら、さようなら愛しいあの人
ありがとう、おやすみなさい私の可愛いオルゴール

新しい一步を踏み出させてくれた貴方に感謝を

後日、あの人のお墓に音のならないオルゴールをそつと置きました。
ふわりと風に乗せてあの人々が笑った気がするの
“ ようやく来てくれたんだな。俺の事ばかり考えてないで幸せになれよ”

きっと、器の広いあの人々の事だからなんでも無かったかのように私の幸せだけを願うんでしょうね。

どうか見守っていてください。

しっかりと前を向いて生きていけるように

貴方が願ったように、私が幸せになれるように。

泣いて、喚いて、叫んでも

声は貴女に届かなくて

想いは貴女に届かなくて

置いていかないでください。

僕はまだ、“終わり”ではないのに
貴女は泣いて、僕に別れを告げる

泣いて、喚いて、叫んでも

空気を震わせる事は出来ずに、音の一つも出せないで

ただただ、無情に

貴女の遠ざかる足音だけが静かな墓地に響いて

どうか、ひとりにしないでください。

願うばかりで、何て僕は無力なのだろう

僕が違う“モノ”なら、違った結末を迎えることが出来ましたか？
貴女にこの想いを伝えることが出来る“モノ”だったら、何かが変わっていましたか？

誰にも気付かれずに一人朽ちていくこの身が、悲しくて仕方がなかった。

苦しくて仕方がなかった。

だけれど、きつとこの身でなければ貴女に出会うことすらなかった
のでしょうか
きつとこんな感情を持つこともなかったのでしょうか。

それは、僕にとっての幸せなのか不幸なのか分かりません。
でも、少しでも貴女の為になれたのなら、生まれてきた意味はあった
気がします。

オルゴールに生まれてきた事を幸せだったと思えるように
ここで一人朽ちていこう

Long Long Goodbye

さようなら、最後まで僕を見てくれなかった愛しい人

次に生まれる事があるのなら最後まで愛されたいと願う

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5800m/>

Romantic Orgel

2010年10月28日08時23分発行